

印製費

神田橋本町共有地

十四年二月ヨリ同

六月マテ地租

新築道修築並井戸

地券書換印稅

地盤試驗器入札拂

十三年度後半準備

充備善公儲金

三厘 支出超過

(以下次號)

府 縣

左ノ通過加價條此

大臣三修實美

各(中)(小)隊ニ

置所在地ノ步兵隊

ハ該卒ヲ醫官ニ渡

第三ノ同科ヲ教習

在テハ該隊所要ノ

渡シ同病院ニ於テ

條 第九條第二節

セシムト雖モ醫官

ノ教習全ク本レハ

中(小)隊長病院

令官ニ具申シ二等

卒ノ職務ハ看病人

卒ニ在テハ總テ屯

病本ハ該隊司令官

醫本部長之ヲ管掌

左ノ教科ヲ教習シ

科 第一 基本体

卒心得書、第二教

正備十五年度ヨリ右ニ準シ調査差出ヘシ此等相

但前半年分ハ三月三十一日檢算年分ハ九月三十日限

差出スヘシ (別冊表仕譯書等ス)

明治十六年二月廿七日 東京府知事芳川顯正

○正誤 海軍省四第二十二號通ノ末ニ天龍艦々位三等ノ

七字ヲ脱ス

時事新報

合本會社ノ用ヲ審カニ可ク(昨日ノ續)

方今我邦ニ於テ合本會社ノ仕組ヲ濫用シテ隨テ實際ニ現

出シタルノ弊害ヲ枚擧スルニ其重要ナルモノ左ノ如シ

第一 冗費多ク

凡ソ一家一人ノ商業ト會社結合ノ商業トハ會社ノ費用少

クシテ一家ノ費用多カルベキガ如シト雖モ若シ其會社大

ナラズシテ一家一人ニテモ營業セラルベキ程ノ事ニ從テ

ハ却テ一家ノ費用少クシテ會社ノ費用多シト謂ハザル

可テアルナリ例ヘハ家賃役員及雇人ノ細キモ均ク五万

圓ノ資本ヲ以テ營業スルニ一家ニテハ家主一人ニテ自宅

ニ住居シ自ラ領取トナリ取締トナリ支配人會計方書記方

ヲ兼務スルノ姿ニテ一ニ雇人アルモ細君ノ監督ニテ事

足リ別ニ多分ノ給料ヲ拂ヒ賃與テ與フルモ及ハズ而シ

テ其給料賃與ハ營業上ノ利潤全額即チ是ナリ此利潤ハ自

己之ヲ受取ラズシテ更ニ翌年ノ商品仕込ノ資本ト爲スナ

以テ漸次累積繁榮ヲ致ス可ク之ニ反シテ會社ノ仕組ニテ

ハ其金額ハ五萬圓ナリト雖モ尙モ二三百人乃至五百人ノ

株主アルモハ必ズ別ニ一字ノ家屋ヲ以テ之レニ充テ其役

員ハ頭取一人取締役三四人支配人一名會計書記等ヲ置キ家

賃ハ勿論相當ニ役員ノ給料ヲモ拂ハザル可ラズ一旦給料

ニ向テ之ヲ拂ヒ各自ニ分配スルモハ更ニ商業ノ資本トハ

ナラズシテ多クハ他ノ方角ニ消散スルモノトス加フルニ

一家ニテ營業スルモノハ晝夜其宅ニ定住スルヲ以テ一家

ノ用務ヲ辨スル傍ラニ營業スルヲ得ルモ會社ニ至リテハ

則チ然ラズ僅令眼前事務ノ繁忙ナラザルモ定例ノ時刻ニ

ラザル可ラザルモノアリ誠ハ大利ヲ達スル期ニテ數年

ノ小益ヲ見ザルコトアリ兩者皆管理者ガ專横ヲ有スルニテ

ラザレバ之ヲ行フコト能ハズ然レモ今其業ヲ營ムニ多數ノ

株主アルモハ各其意見ヲ持シ發言ノ權アル上ハ自己ノ願

手ノ事ニシテ陳述シ多數ノ決議ニ依リテ其方向ヲ定メ其權

限ヲ限ラザル可ラズ此ノ如キ會社ニテ實業ヲ執ル頃取

支配人ノ細キハ甚ダ困難ノ事ナリトス山陽道某銀行ハ多

ク十族ヨリ成立セシモノニテ公債証券ヲ以テ加入シタル

モノナリ然レモ下半年ノ銀行利益配當ハ十二月中ヨリ行

ベキコトニ營業條規ノ改正ヲ決議シテ蓋シ公債ノ利子ハ

十一月ニ受取ルノ習慣ナルヲ以テ若シ他ノ銀行ノ如ク一

月ニ分配スルモハ株主ノ不便ナルヲ以テナリ然レモ退テ

銀行ノ損益如何ヲ顧レバ十二月ハ一年中金融最モ繁忙ニ

シテ隨テ其利益ノ最モ多キ時期ナルニモ拘ラズ分配金ヲ

運轉資本中ヨリ領取ラザル可ラズ其不利タル旨ヲ俟タザ

ルナリ只衆議ノ決スル所ナルヲ如何セシ又某事業ハ開業

後三年乃至五年ヲ經サレバ利益アラサルモノナルモ一二

年ニシテ利益アラザルモハ論論百出シ此論論ヲ鎮靜セシ

ガ爲ニ急ニ無理ナル配當ヲナス等會社全体永遠ノ利益ノ

ヲメニハ其害之ヨリ大ナルハナシ誠ハ活動運轉ノ最速ナ

ル業務ニシテ衆議ヲ要セザル可ラズトスル時ハ機ヲ失シ

損ヲ招クノ恐アリ是等ハ株主多數ノ弊害ニシテ殊ニ貧困

ノ人ヨリ成立シタル會社ハ最モ困難ヲ極ムルモノトス是

レ今日日本邦一般ノ景況ニシテ一國ノ政治ニ警フレバ

人文未ダ開ケサル國ニ於テ普通選舉ノ法ニヨリ多數ノ代

議士ヲ出シテ國政ヲ議スルモノト一般ナリ其政治ノ方向

定マラズシテ而モ一國ノ安寧幸福ヲ得ザルハ免レ難キノ

數ナリトス近日モ某地ニ一大銀行アリ創立以來尙未ダ數

年ナラズシテ其役員取締役等ノ新陳更迭甚ダ繁クシテ頭

取ノ如キハ一年ニシテ退身ヲ促サレ半年ニシテ辭職シ權

々ノ處ヨリ様々ノ議論ヲ生シテ殆ト停止スル所ヲ知ラズ

我輩ハ誠ニ此銀行ヲ目シテ「メキヤ」コ「政府ノ評ヲ下シ

第三 專ニ處スル信實ナラズ

總テ一個人私ノ利害ニ關スルコト一國全体公ノ利害ニ關

スルコトハ其感情自カラ深淺厚薄ノ別アリ會社ニ至リテ

モ亦斯ノ如ク各自ノ實金ヲ集メテ其利害ノ一身ニ關スル

ハ決シテ輕直ナシト雖モ其區別ヲ存スルハ人情ニ於テ

免レ難キ洞ナリナレバ該社其業ノ役員ガ會社ノ專ニ處ス

ル恰チ一家ノ主人ガ一家ノ專ニ處スル恰チ親切關係

ニシテ

第二 費多ク

其仕組大ナラズシテ其割合ニ費用ヲ減スルコト能ハザルハ

則チ一ナリ此故ニ會社ニ必ズ大ナラザル可ラザルナリ

第二 費多ク

凡ソ商業ノ事ヲ辨ズルニハ機ヲ設ケテ應シテ迅速ナ

ル

第一 冗費多ク

合本會社ノ用ヲ審カニ可ク(昨日ノ續)

方今我邦ニ於テ合本會社ノ仕組ヲ濫用シテ隨テ實際ニ現

出シタルノ弊害ヲ枚擧スルニ其重要ナルモノ左ノ如シ

第一 冗費多ク

凡ソ一家一人ノ商業ト會社結合ノ商業トハ會社ノ費用少

クシテ一家ノ費用多カルベキガ如シト雖モ若シ其會社大

ナラズシテ一家一人ニテモ營業セラルベキ程ノ事ニ從テ

ハ却テ一家ノ費用少クシテ會社ノ費用多シト謂ハザル

可テアルナリ例ヘハ家賃役員及雇人ノ細キモ均ク五万

圓ノ資本ヲ以テ營業スルニ一家ニテハ家主一人ニテ自宅

ニ住居シ自ラ領取トナリ取締トナリ支配人會計方書記方

ヲ兼務スルノ姿ニテ一ニ雇人アルモ細君ノ監督ニテ事

足リ別ニ多分ノ給料ヲ拂ヒ賃與テ與フルモ及ハズ而シ

テ其給料賃與ハ營業上ノ利潤全額即チ是ナリ此利潤ハ自

己之ヲ受取ラズシテ更ニ翌年ノ商品仕込ノ資本ト爲スナ

以テ漸次累積繁榮ヲ致ス可ク之ニ反シテ會社ノ仕組ニテ

ハ其金額ハ五萬圓ナリト雖モ尙モ二三百人乃至五百人ノ

ナリヤ或ハ米々然ラザルモノアルガ如シ是レ其會社ノ利益ハ一家ノ商業ニ及ハザルコト多キ所ナリ又株主ニ於テモ僅々十圓乃至五十圓ノ金額ヲ投シタル者ナレバ其利害ノ切ナルヲ感モズ甚シキハ自身ノ會社ヲ他人ノ手ニ全ク譲リ介セザルアリ或ハ十圓乃至五十圓ヲ以テ一個ノ利益ヲ是レ謀リ全社ノ損耗ヲ顧ミザルモノアリ二者共ニ信實ナリト謂フ可ラズ會社ニ於テモ至リテハ會社ト同様ノ業ヲ家中ニ營ムモノアリテ諸方ノ注文ヨリ利益ノ多キモノハ自家ニ之ヲ引受ケ利益ノ少キモノハ會社ニ持出ス等ノ奇談モ現ニ之アリタルヲ聞ク斯ル有様ニテ會社ノ隆盛ヲ望ムモ豈ニ得可ケンヤ

以上ノ情况ニ由リテ之ヲ考フレバ仕組ノ小ナル會社ニシテ一家ノ商業ト輪瀾ヲ争フモ逆モ勝ヲ制ス可キ様ナク隨テ利益ノ多カラザル勿論ナリ故ニ余輩ノ考察ニテハ本邦ノ會社モ前ニ掲ケタル合本會社三項ノ性質ヲ變ニ其事業ノ果シテ此性質ノ範圍内ニ屬スルモノナルヤ否ヲ檢シ依令此範圍内ノモノト雖モ其實本金額ノ多カラズ一個人ノ實力ヲ以テ應スベキモノハ合本會社法ニ依ラザルヲ以テ得策トス現ニ今日ノ國立銀行ニハ資本金額五萬圓ナルモノアリ是等ハ其當ヲ得タルモノト云フ可ラズ然レテ本邦會社ノ進歩ハ鐵道電信造船等今日政府ノ手裡ニ運動スルモノヲ舉ケ人民ノ掌ニ運轉スルニ至テ初メテ會社ノ會社ナル真面目ヲ有スルニ至ルベシ區々小賣商業ノ會社ハ余輩ノ取ル所ニアラザルナリ (畢)

雜 報

○大砲射的天覽 近日の内再度越中島にて在東京砲兵の第二次大砲射的會を催さるゝ等ハ付其節 聖上には行幸天覽在らせらるゝやに承る

○桂宮 西京ある桂宮は目今御常主の御とさるゝも元來同宮の舊四親王と奉稱せま世襲の親王家あるを以て御稱號並み全御殿向の來る十月故三品淑子内親王の壽一周年祭を辦せらるゝ後には總て東京へ御引移し御成慶ふ付右御殿向取調として此程宮内省准奏御成慶御成慶の同地へ出張さる目下日々同宮へ參遊する由

○大藏省府 野中より京都府下へ赴むかるゝ哉の間に石田英吉君の御殿御閣の上は即日當地を出發せらるゝの手續あり且つ京都府在中同君が藩主とされ故に關原問木戸孝允君が七回忌の法廷を取越して勤めらるゝよしよて既岩倉公より西本願寺へ種々の御會をせられし哉及び

○福岡孝節君 福岡文海君の二弟日熱海温泉より歸京せられしが昨五日より出省せられたる右付同日松方大藏卿の代理を解れたる

○石田英吉君 石田秋田縣令は御用を付一昨日出京せられたる

○參事院 參事院にて近日の内閣官全權とも増賣され會議條件を成丈速決決議せらるゝ都合ありと又同院にて北海道三縣下民情視察と去て不日閣官全補の内兩三名にて巡回せらるゝ由

○國勢一斑 客年中より其筋ふ於て編纂中なりし國勢一斑といふ書之既印刷付せられしも此程全く落成せしを以て先づ三百部を調製し不日 聖上同皇居宮へ進献の上は皇族大臣參議其他へも配賦せらるゝ由又同書の調製方も至極美麗なるものにして表紙の金細を用ひられ鋭釘るゝの習金減金ありと云

○大砲射的會 一昨日越中島に於て行われし同會の景況大略の取敢へす前載の記載せしが今其次第を詳記せん本會の役員は去る三日の紙上配せし如くにて先づ的を距る八百メートルの場所を四斤野砲を据へ第一教導團第二東京鎮臺山砲隊第三近衛山砲隊第四全野砲隊第五東京鎮臺野砲隊第六全第七全山砲隊にて午前九時二十分一發の號砲と共に指揮官の號令を隨ひ第一より順序を以て各四砲を放つと五回午後四時三十分の號砲を以て觀射的を終る夫より右七組の中にて更ニ優等者を按擢しスクール砲二砲車を並べ各十發づゝ放射して全く終りを告げり是日の曇天ありしが午後五時許に微日光を洩せしも連日の雨おて道路泥濘車輪を漫する程にて頗る挽回お苦めりと參觀人は塔をみせしも絶へて雜沓多く對岸の觀衆の頭顱參差宛かも石垣を積むかと思はれて可笑しかりし扱當日は得點賞は一等が廿八等迄おて物品人名左の如くおて賞典授與式も同日終りり

第一等特別賞銀盃一個寫眞挾一個(皆中十カ點)近衛兵衛保十七、第二等賞銀時計一個(三發命中十五點)鎮臺野砲兵沼田拾吉、第三等賞銀シ合羽一枚編幅傘一本(同十三點)鎮臺山砲兵水越兼吉、第四等賞毛巾三枚(同十一點)佐藤外松、第五等賞毛巾二枚靴下一ダマ(同十點)近衛野砲兵藤崎佐次郎、第六等賞全上(全點)教導團兵岩崎直三郎、七等賞全上(全上點)近衛山砲兵中臺佐吉、八等賞毛巾二枚(全八點)近衛野砲兵原留次郎、九等賞毛巾一枚(全八點)近衛野砲兵原留次郎、九等賞毛巾一枚(全八點)上下肌着ハンケチ一ダマ(全四點)鎮臺山砲兵海老原喜一郎、十等賞毛巾三枚二發命中十二點教導團野中幸之助十一等全上(全十一點)教導團野中幸之助十二等全上(全八點)近衛野砲兵井川三次郎、十三等フアンチ、襪神地、綿仙一反(全八點)野砲兵齊藤藤林、十四等綿南都一反(全八點)山砲兵柳井萬作、十五等全上(全七點)山砲後藤竹橋、十六等全上(全六點)教導團服部鉄太郎、十七等全上(全六點)近衛兵石野鎮建、十八等全上(全六點)

○冰雷局長出張 柴山水雷局お紀伊伊豫及び馬關長崎等へ日出發の由とは冰雷裝置の場辦理せらるゝ爲なりと云ふ

○冰雷火器 今度海軍省お水雷火器を獨乙國へ此程注文の同艦の船首お付せらるゝ器能く運用を自在おする餘程輕

○陸軍士官學校 陸軍士官學校にて勤務し來りしと云ふ今般付自今各科とも大中少尉の内相成りしと

○陸軍教導團 陸軍教導團本四日より當分の内毎日水岡囉シガ藤生徒は未だ東京府下不歩の當日おは一小隊お下士官注意を加へらるゝといふ

○漁船検査 農商務省准委任漁船検査として大坂、兵庫、愛日命せられたる

○北京通信 一月十八日清國下支那政府に於ては恭親王、力を失ひ(醇親王)國帝の生父醇親王黨派は者多くは守舊大勢を辨知する者極めて少を淺として規模の小なる實に見の軍機大臣の李鴻藻、景慶、五名あり此等の入々并張之皆醇親王と同説おして恭親王人々なり此黨の人は恭親王以侮蔑し志お權を弄し姦賤驕傲を知らざる者ともありと嘲へ(恭親王の意の如きは朝廷の辭し其故編漸江省仁和縣を歸る所ありと云ふて目下正は歸の準備するの勢あり又恭親王するよと云ふも、しく李鴻藻

近衛兵衛高橋文造、十九等全上(全五點)原重太郎、二十等全上(全五點)十一等全上(全五點)山砲兵藤仙一反(全四點)教導團兵(全三點)近衛兵市丸芳次郎砲兵正村親一郎、廿五等全上(全三點)廿六等全上(一發命中六廿七等全上(全五點)野砲兵小五點)教導團兵堀敷江

○冰雷局長出張 柴山水雷局お紀伊伊豫及び馬關長崎等へ日出發の由とは冰雷裝置の場辦理せらるゝ爲なりと云ふ

○冰雷火器 今度海軍省お水雷火器を獨乙國へ此程注文の同艦の船首お付せらるゝ器能く運用を自在おする餘程輕

○陸軍士官學校 陸軍士官學校にて勤務し來りしと云ふ今般付自今各科とも大中少尉の内相成りしと

○陸軍教導團 陸軍教導團本四日より當分の内毎日水岡囉シガ藤生徒は未だ東京府下不歩の當日おは一小隊お下士官注意を加へらるゝといふ

○漁船検査 農商務省准委任漁船検査として大坂、兵庫、愛日命せられたる

○北京通信 一月十八日清國下支那政府に於ては恭親王、力を失ひ(醇親王)國帝の生父醇親王黨派は者多くは守舊大勢を辨知する者極めて少を淺として規模の小なる實に見の軍機大臣の李鴻藻、景慶、五名あり此等の入々并張之皆醇親王と同説おして恭親王人々なり此黨の人は恭親王以侮蔑し志お權を弄し姦賤驕傲を知らざる者ともありと嘲へ(恭親王の意の如きは朝廷の辭し其故編漸江省仁和縣を歸る所ありと云ふて目下正は歸の準備するの勢あり又恭親王するよと云ふも、しく李鴻藻